

# わたしたち、鮮やかな花を咲かせたい

滋賀県造園協会南地区(守山・野洲支部)の女性造園家たち

造園は、日本家屋が当たり前だったところに「植木屋さん」「庭師さん」と呼ばれていた職人たちの業界といえます。戸外の作業で力仕事も多い造園業の世界ですが、近年、女性ならではの色彩感覚と細やかな感性で活躍する女性造園家が輝いています。

今回は、造園業の経営者と滋賀県造園協会南地区(守山・野洲支部)の支部長に造園業の歴史と移り変わりなどを伺いながら、現場で活躍する女性造園家(井口登美子さん、安井海悠さん、角好未さん)に庭づくりへの思いなどを座談会形式で語っていただきました。

「外仕事だけ大丈夫？」  
わたしたちには「壁」じゃない

近年の造園は、洋風家屋の庭づくりや公園の管理が多いので、花壇やガーデニングなど季節ごとの花や色どりがテーマになることも増えています。女性ならではの柔らかさや色彩感覚が加わることはとても重要なことで、女性が活躍する場はいくらでもある業界だそうです。

一方で、就職の面接をする時、女性には必ず「外仕事だけ大丈夫？」と聞いてしまうそうです。暑い夏も寒い冬も、除草作業をしたり、スコップを持って一輪車を押したり、野外で仕事をするようになるからです。

Q どうして、造園業に飛び込もうと思ったのでしょうか？

井口さん もともと花を育てるのが好きで、植物に関わる仕事がしたいと思いました。自分が植栽した植物が、将来まで残っていくことが造園の魅力だと思います。私が会社に入った25年前は、市内の造園業には女性がほとんどいなかったけれど

「男ばかりの時のように乱暴な言葉遣いとかしてたら泣いて帰ってしまうかも」と思ったらしく、男性の方がフォローしてくれていました。腕力や体力は足りなけれど、がんばってついていこうと考えていました。

安井さん 湖南農業高校で「草花を専攻していました。最初から目指していたわけではありましたが、私は花壇づくりや園芸にかかわる実習が楽しくて、造園の会社を就職先を選びました。

角さん 私は体を動かすのが好きなので、石を動かしたり、力仕事のイメージに惹かれました。美術系の学校だったので、そういうセンスが生かせるのかな、とも思いました。先輩の女性がいると聞いたので安心して就職できました。

女性ならではの細やかさ  
喜んでもらえるとうれしい

日本庭園が中心だった昔ながらの造園は、時代とともに「観る庭から「エクステリアを中心とした楽しむ庭」に変化してきました。

苦労はあるけど夢もある  
好きだからできる仕事

造園家にはセンスだけではなく、多くの知識や機械の操作技術も必要で、さまざまな資格を取得する努力もしなければなりません。

誇りやこだわり、好きでなければ続かない仕事です。造園の奥深さや歴史を学び、プロ意識をもって、活躍を続けてほしいと期待を寄せているそうです。

Q 毎日汗を流している皆さんの夢はどんなんでしょうか？

角さん まだ1年にもならない駆け出しですが、やっぱり美術系なので、いつか自分の選んだ植物やセンスで庭園や花壇が造れたらいいなと思います。

安井さん 今は、新築住宅のエクステリア工事(外構工事)の監督をしています。外構を教えてくれる上司に目標としている人がいます。工事が多く木に触れることが少ないですが、剪定技術もうまくなりたいです。プライベートでは、コロナ禍が過ぎて海外に行けたらと思います。

井口さん 剪定、刈込、除草など現場全般の維持管理をしています。今は木の仕事が多いですが、やっぱり花を植える時が一番楽しい。花壇の仕事がしたいですね。プライベートでは、休みの日に夫とのんびり過ごしたいです。

Q 実際に日頃の仕事を聞いて、造園に関わって良かったと思うことはあるのでしょうか？

日本家屋の庭づくりでは、松など樹木の「緑」のコントラストと配置が中心でした。伝統的な造園技術やセンスを持つ職人は、いわば水墨画の匠です。最近では、そこに季節の色彩を求められるようになってきました。

咲きほころんだ花の色やグリーンションまでイメージする女性ならではのセンスは、昔ながらの技術だけでは追いつけないものだと思います。

安井さん 私はおおざっぱな性格なので、どこまで細やかな仕事ができるか分からないですが、以前個人の家で低木類を植栽した時に、施主さんから「きれいにしてください」と喜んで声をかけてもらいました。すくすくうれしかったのを思い出しました。

井口さん 体力的には男性に勝てないけれど、施主さんから仕事の仕上げは丁寧だと言ってもらえることがあります。そういう時は、やっぱりうれしくて、もっとがんばろうと思います。

角さん 今はまだ草刈りの野外作業ががんばっています。石積みなどの力仕事ができるようになっていきたいと思います。



座談会参加者：右から立入 一道さん(県造園協会南地区 守山・野洲支部 支部長)、仲川 勉さん(株式会社 吉仁園)、小西 新次さん(株式会社 宝山園)、井口さん、安井さん、角さん



庭木の剪定、日本庭園、家屋のエクステリアなど女性造園家たちが活躍している現場



角 好未さん(22歳)  
株式会社 吉仁園(入社11ヵ月)

安井 海悠さん(21歳)  
株式会社 宝山園(入社3年)

井口 登美子さん(45歳)  
株式会社 吉仁園(入社25年)